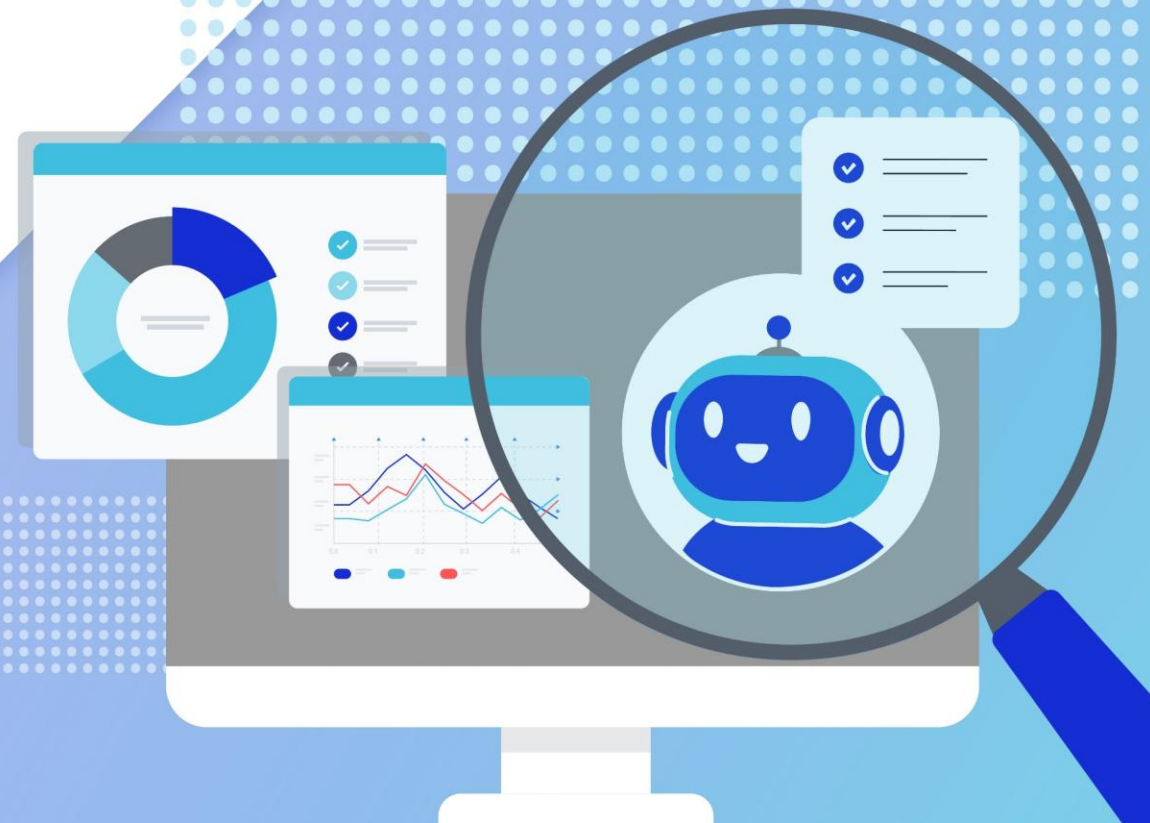


資料作成の業務実態から見る、
スライド生成AIツール利用拡大のポイント

スライド生成AIツールと 資料作成業務に 関する調査

 **STREAMLINE**



アンケート調査概要

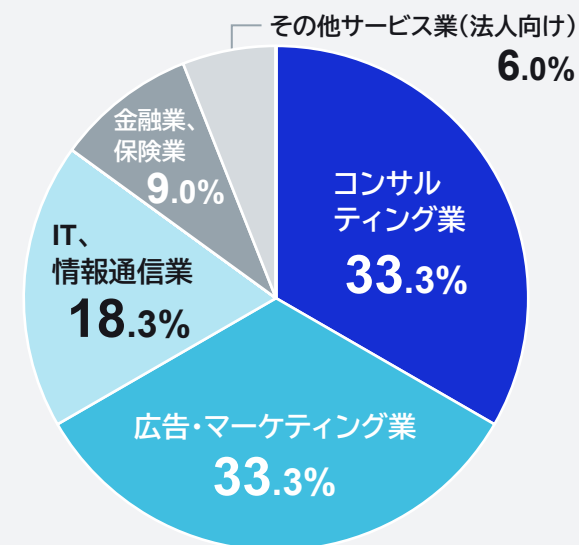
今日のビジネスにおいて、資料作成は提案や意思決定に不可欠な業務です。しかし、構成案の作成やデザイン調整などにかかる時間と労力がコア業務を圧迫するため、資料作成業務は多くのビジネスパーソンにとっての大きな負担となっています。こうした課題に対し、近年急速に進化・普及している生成AIツールが解決策の一つとして注目されています。

本調査では、ビジネスパーソンが日常的な資料作成業務において生成AIをどの過程で利用し、また評価しているかを調査しました。

調査概要

調査テーマ	スライド生成AIツールと資料作成業務に関する調査
調査期間	2025年9月8日～9月10日
調査手法	インターネット調査(モニター調査会社利用)
有効回答	広告代理店、コンサルティング会社、その他BtoB企業に勤めている、全国の23歳～59歳の男女300名

● 回答者の業界割合



※ 合計を100%とするため、一部の数値について端数の処理を行っております。そのため、実際の計算値とは若干の差異が生じる場合があります。

アンケート調査のサマリー

Point 01

高頻度な資料作成が、ビジネスパーソンの業務時間を日常的に圧迫

- **58.4%**が、資料作成業務に週11時間以上かけている
- **74.7%**が「資料作成にかかる時間を減らしたい」と回答

Point 02

一方で、既にAIを活用しているユーザーの多くが業務効率化を実感

- **7割以上**が資料作成業務で生成AIを利用
- スライド生成AIツールの利用経験者のうち**63.7%**が、「資料作成業務の効率化を実感」

Point 03

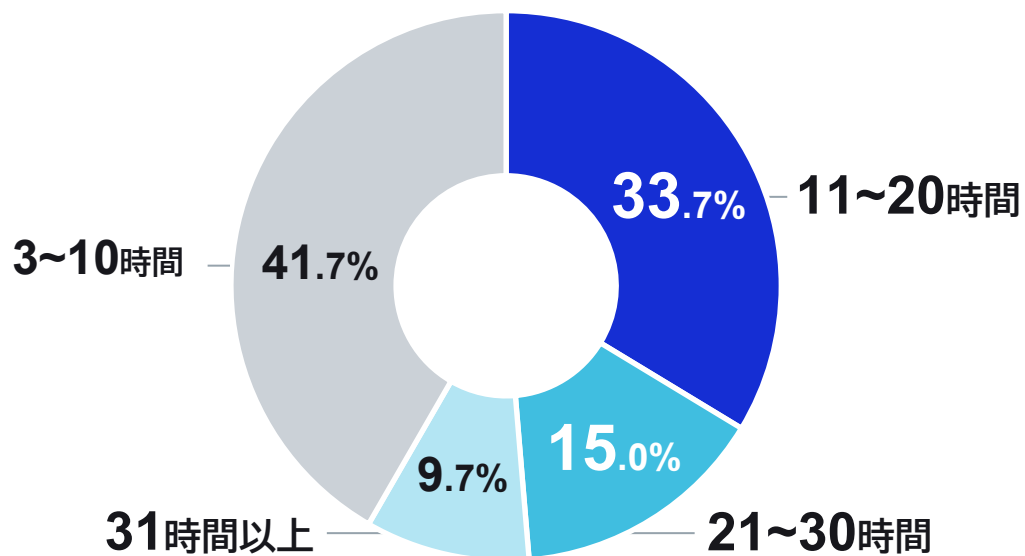
スライド生成AIツールの課題は“実務で使える資料”とのギャップ

- 「自社テンプレートや個人のスタイルに合わない」 **29.9%**
- 「生成される文章の精度・品質が低い」 **28.5%** 等

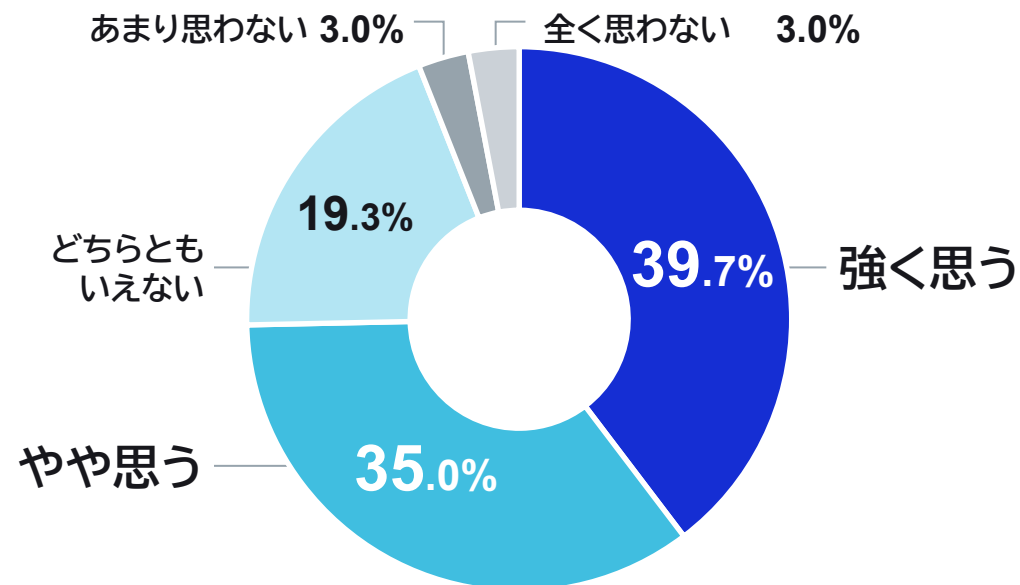
1. 資料作成の現状

資料作成が業務時間を圧迫し、大きな負担に

Q 1週間の業務の中で、どの程度の時間を資料作成にかけていますか。(単一回答) n=300



Q 資料作成に費やす時間を削減したいと思いますか。(単一回答) n=300

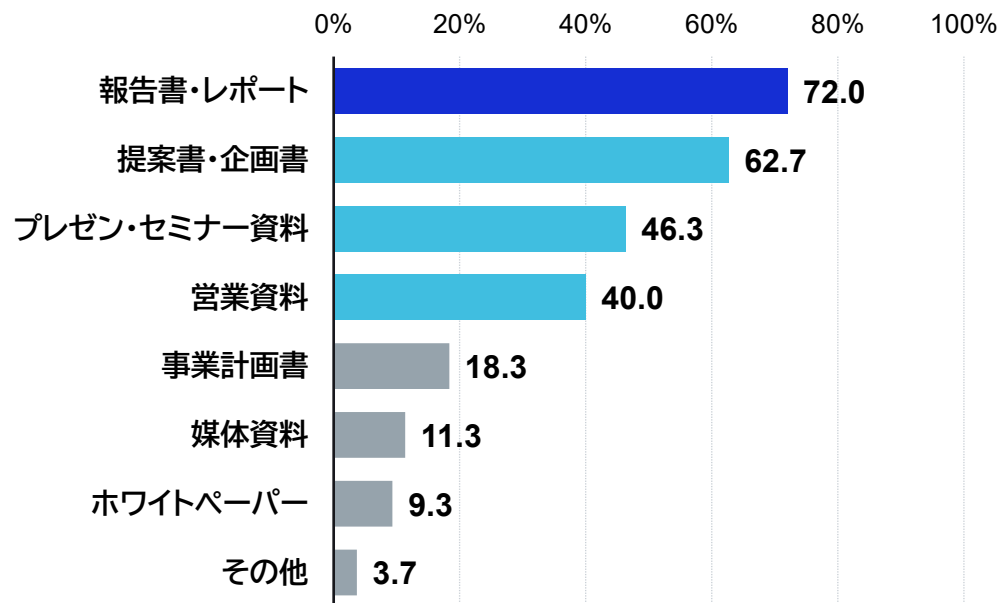


- 週11時間以上を資料作成に充てている人は**58.4%**
- **74.7%**が「資料作成にかかる時間を減らしたい」と回答しており、資料作成業務が時間的なボトルネックに

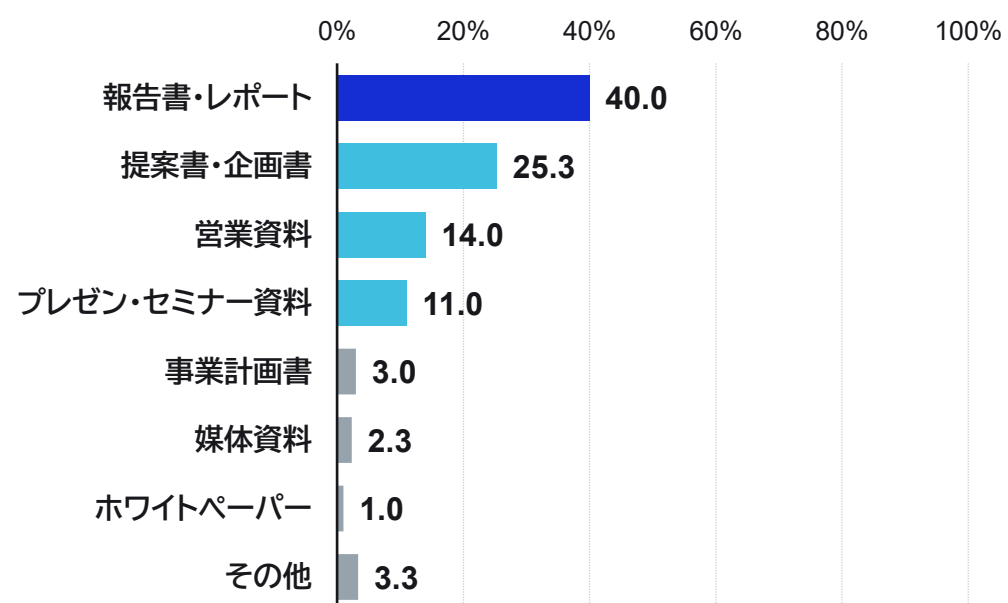
1. 資料作成の現状

作成頻度の高い資料がコア業務を圧迫

Q 資料作成業務の中で作成する資料の種類を教えてください。(複数回答) n=300



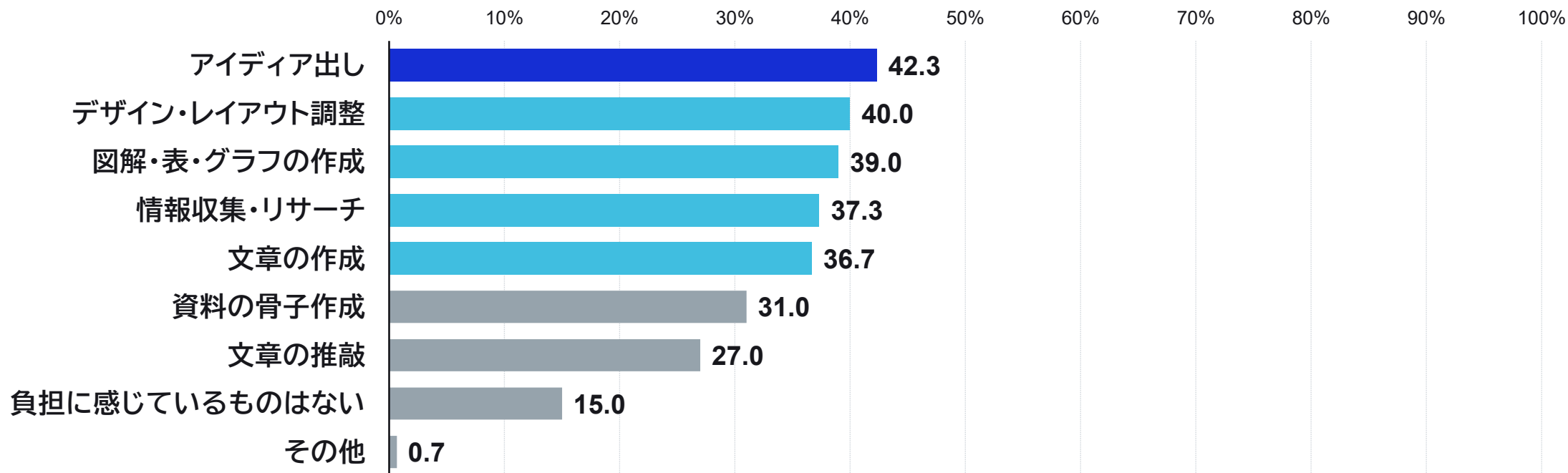
Q その中で一番作成する頻度が高い資料を教えてください。(単一回答) n=300



- 最も多く作成されているのは「報告書・レポート」や「提案書・企画書」といった、作成頻度が高めの資料であることから、日常的にコア業務を圧迫している可能性が高い

資料を作成する過程全体で負担が生じている

Q 資料を作成する過程において、負担に感じているものを教えてください。(複数回答) n=300

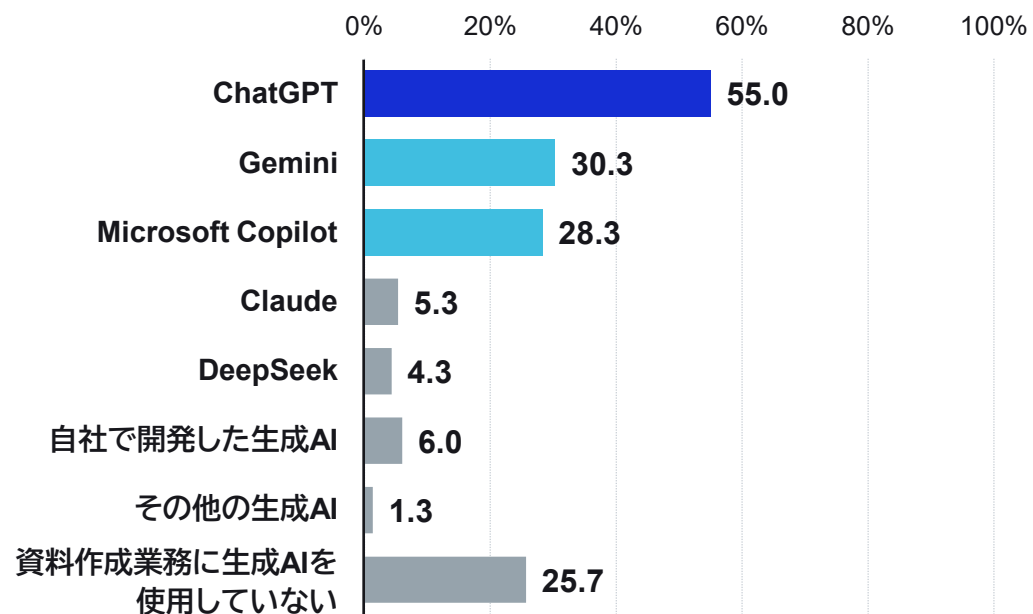


- 資料作成業務の過程では、資料作成の準備段階である「アイディア出し」から、実際に手を動かして作成する「デザイン・レイアウト調整」などの実作業にかけて、**全体的に負荷がかかっている**ということが明らかに

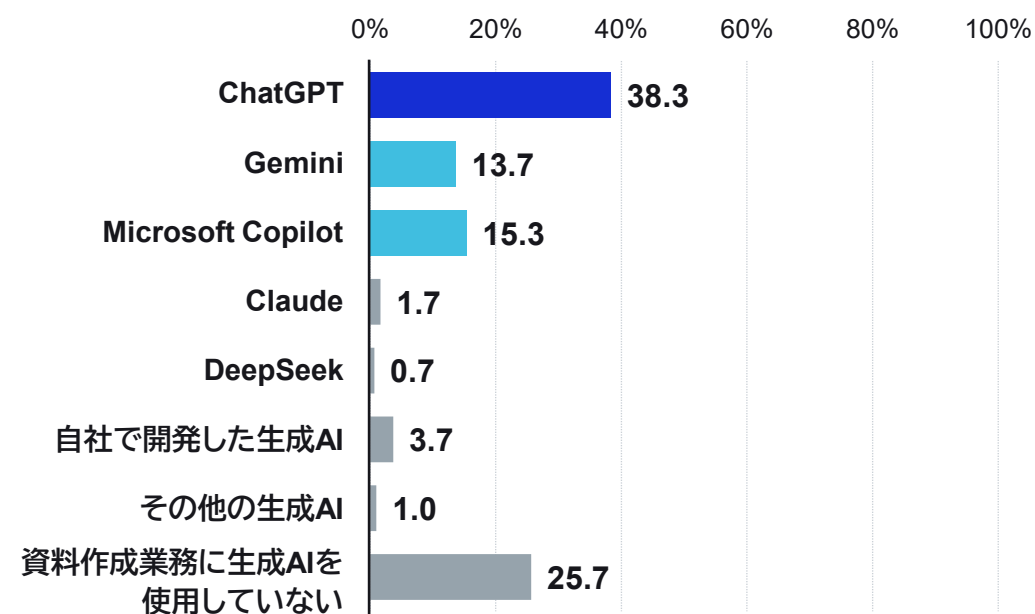
2. 生成AIの普及と効果

7割以上が資料作成に生成AIを活用

Q 資料作成業務において利用している生成AI(AIアシスタント型)を教えてください。(複数回答) n=300



Q その中で最も活用している生成AI(AIアシスタント型)を教えてください。(単一回答) n=300

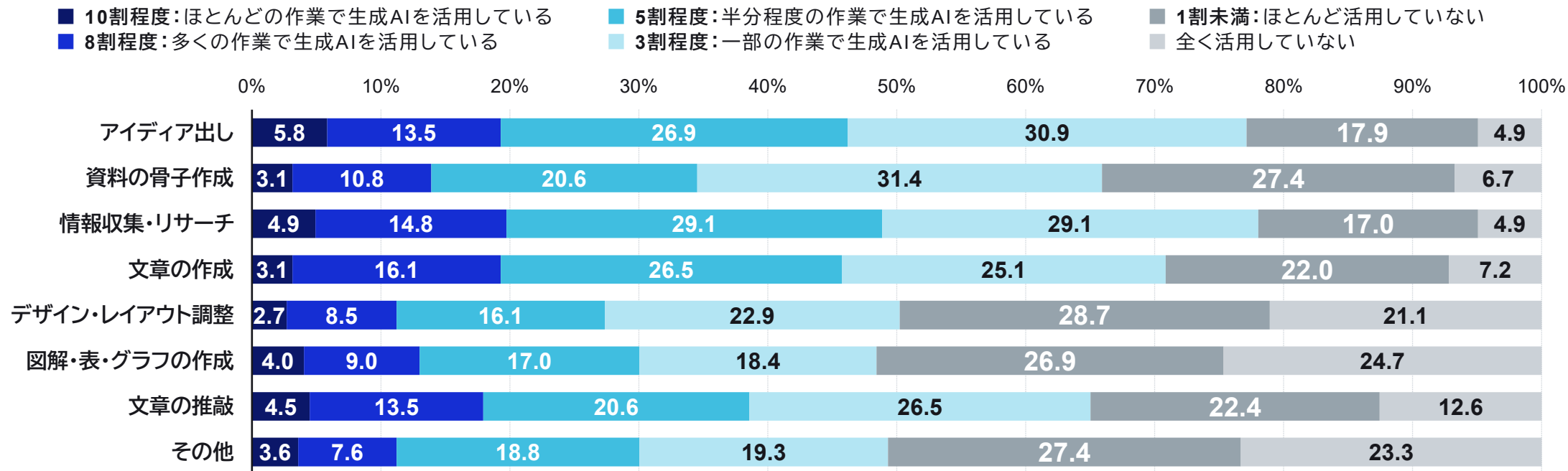


- 資料作成業務における生成AI(AIアシスタント型)の利用率は**74.3%**
- 利用されている生成AIは**ChatGPTが最多**

デザイン作業面では生成AIが十分に活用されていない

Q 資料作成業務におけるそれぞれの過程で、生成AI(AIアシスタント型)をどの程度活用していますか？

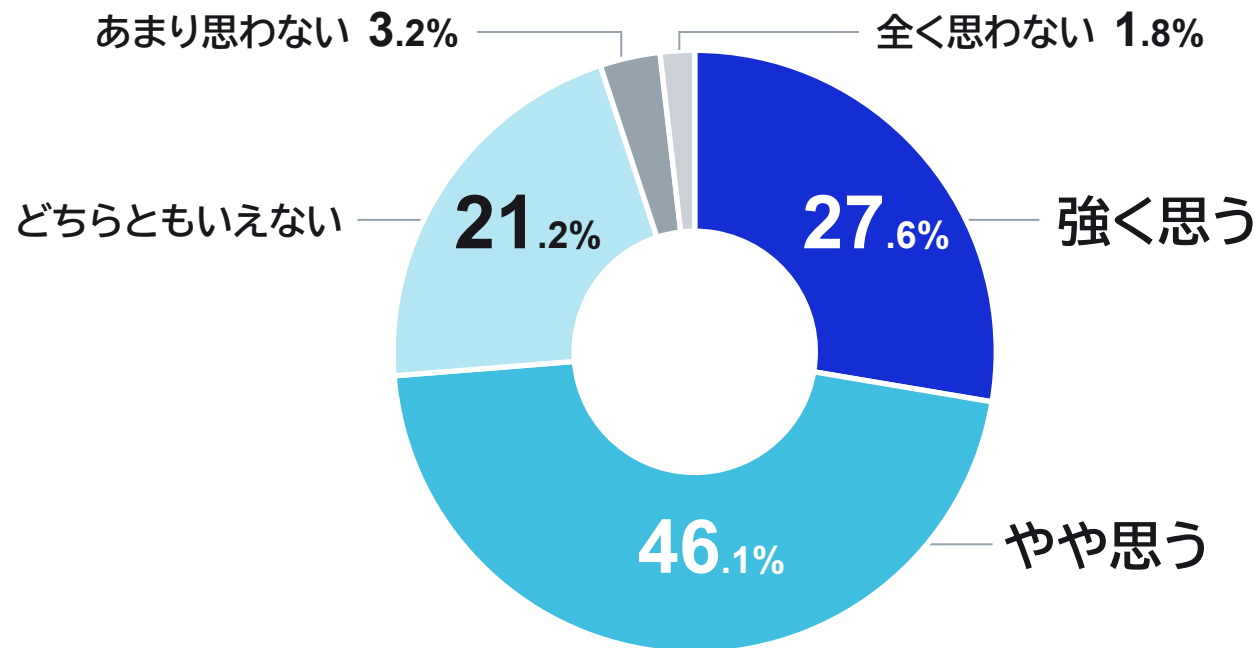
n=223



- 生成AIの主な用途は「情報収集・リサーチ」「アイデア出し」「骨子・文章作成」
- デザインの調整や図解・グラフの作成の過程では半数が生成AIをほぼ活用しておらず、手作業で作成している

7割以上が生成AIの活用で資料作成業務の効率化を実感

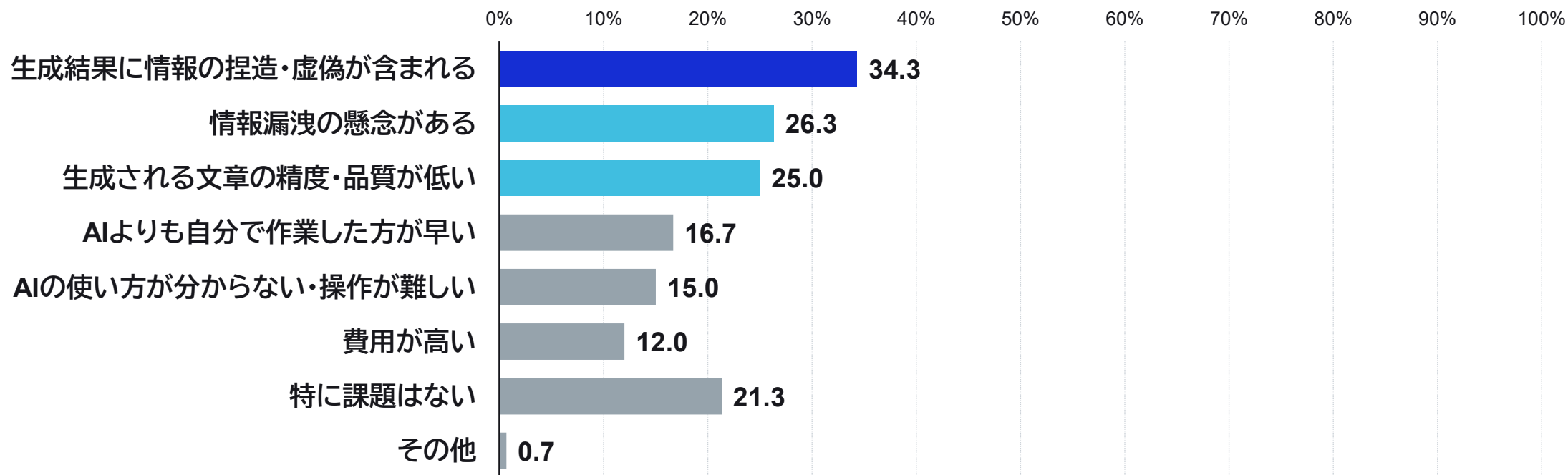
Q 生成AI(AIアシスタント型)を活用することによって、資料作成業務が効率化されていると思いますか？ (単一回答) n=217



- **7割以上**のビジネスパーソンが資料作成時の効率化を実感
負担となっていた作業過程(情報収集、アイデア出し、文章作成など)に生成AIを活用することで、
効率化された可能性が高い

生成結果の正確性・情報漏洩への不安

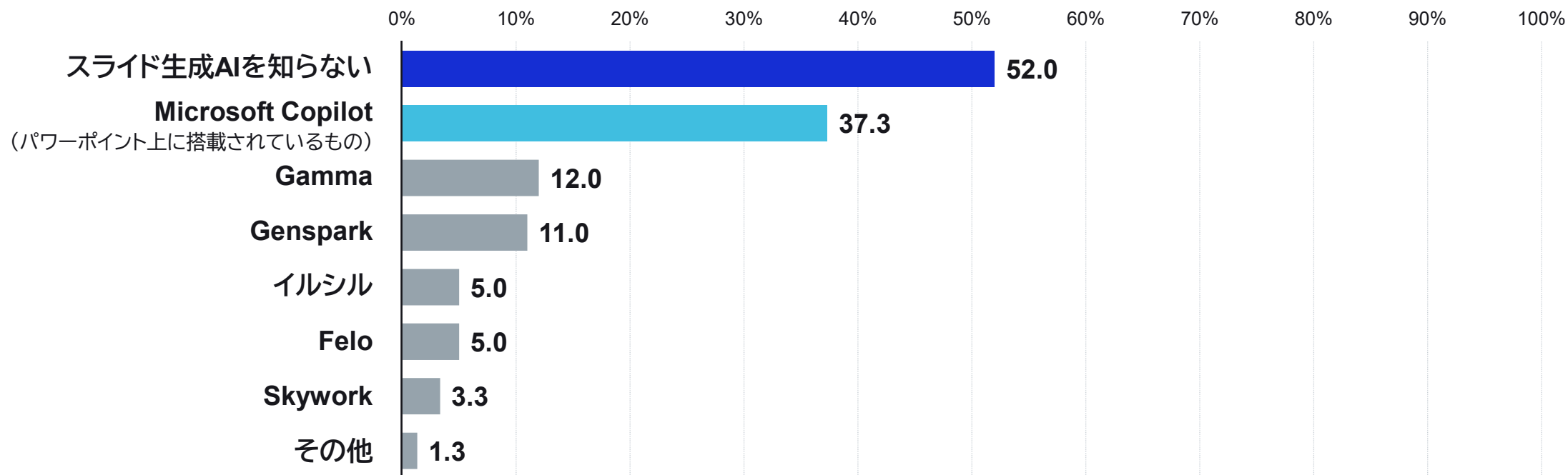
Q 生成AI(AIアシスタント型)に関して感じている課題を教えてください。(複数回答) n=300



- 業務の効率化が感じられる一方、生成された情報の正確性や情報の機密漏洩リスクへの不安は依然残っており、人の手による確認と編集、利用者のリテラシー向上が求められる

Q 知っているスライド生成AIツールを教えてください。(複数回答)

n=300

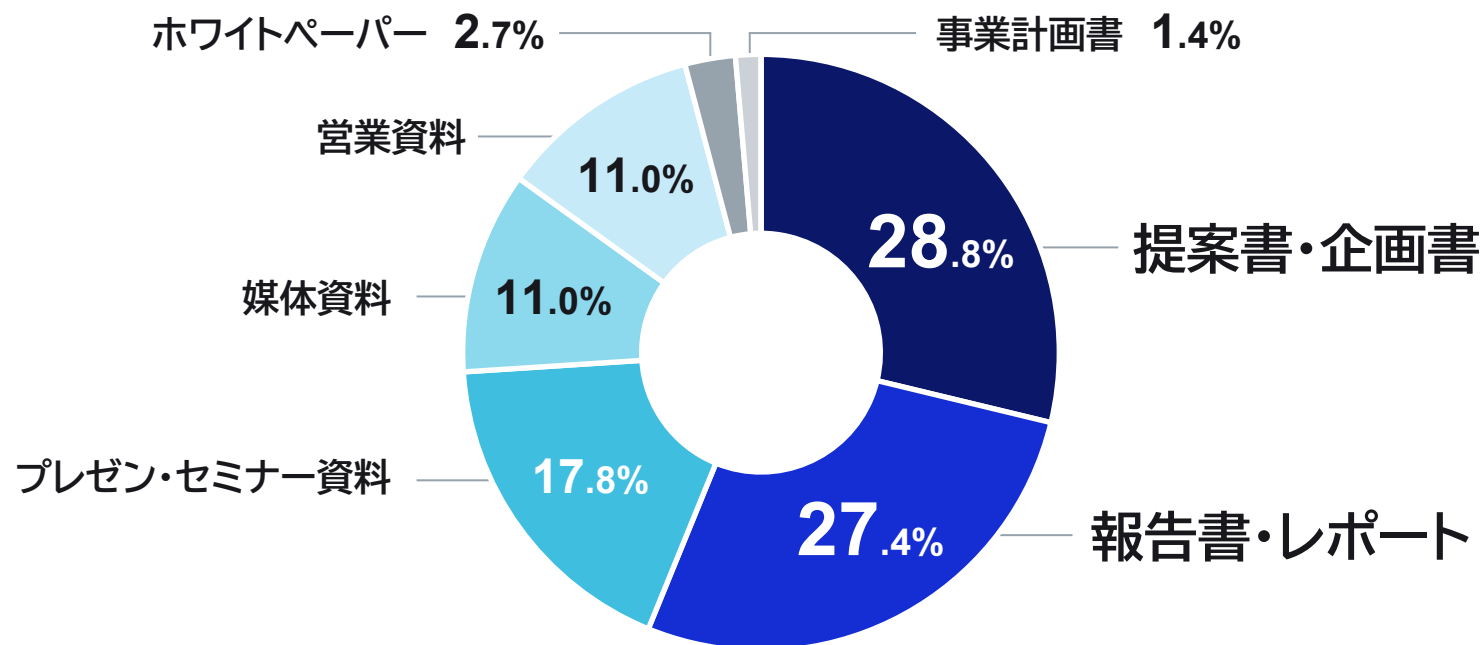


- 半数以上が「スライド生成AIを知らない」と回答
- PowerPoint上に掲載されているCopilotの認知度が最も高い

スライド生成AIの優先ターゲット

Q スライド生成AIツールを用いた資料作成において、最も作成頻度が高い資料の種類を教えてください。
(単一回答)

n=73

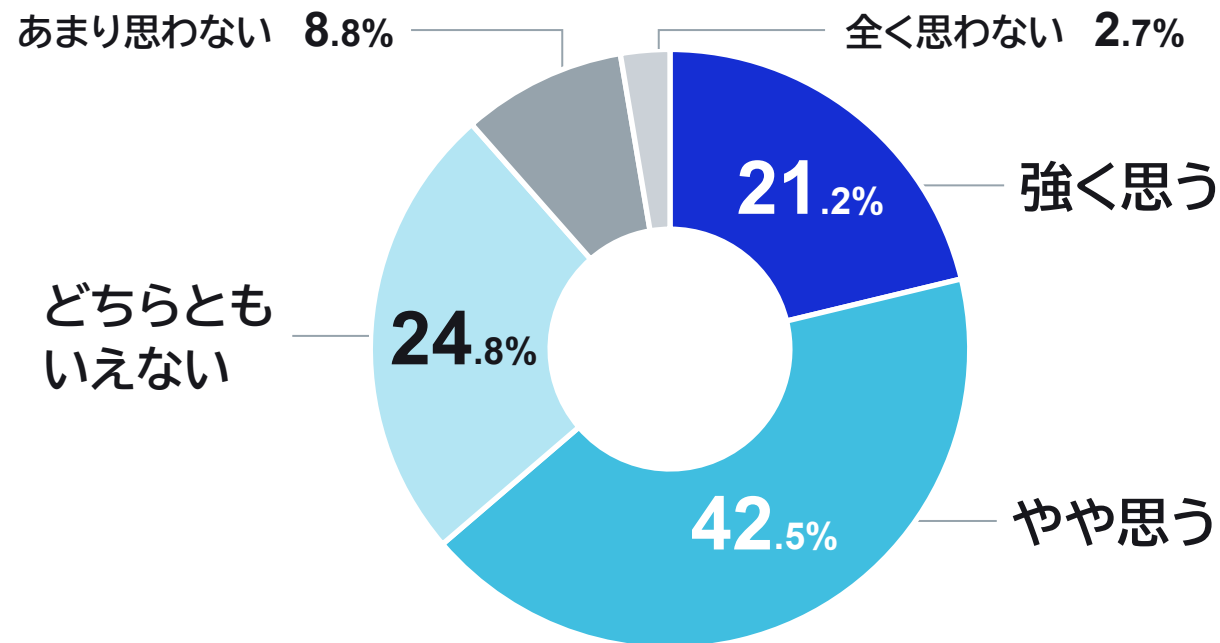


- 日々の作成頻度が高く、コア業務を圧迫する可能性のあった「提案書・企画書」「報告書・レポート」が、スライド生成AIによる効率化の優先ターゲットになっている

6割以上が効率化を実感

Q 資料作成にスライド生成AIツールを活用することによって、資料作成業務が効率化されていると思いますか？
(単一回答)

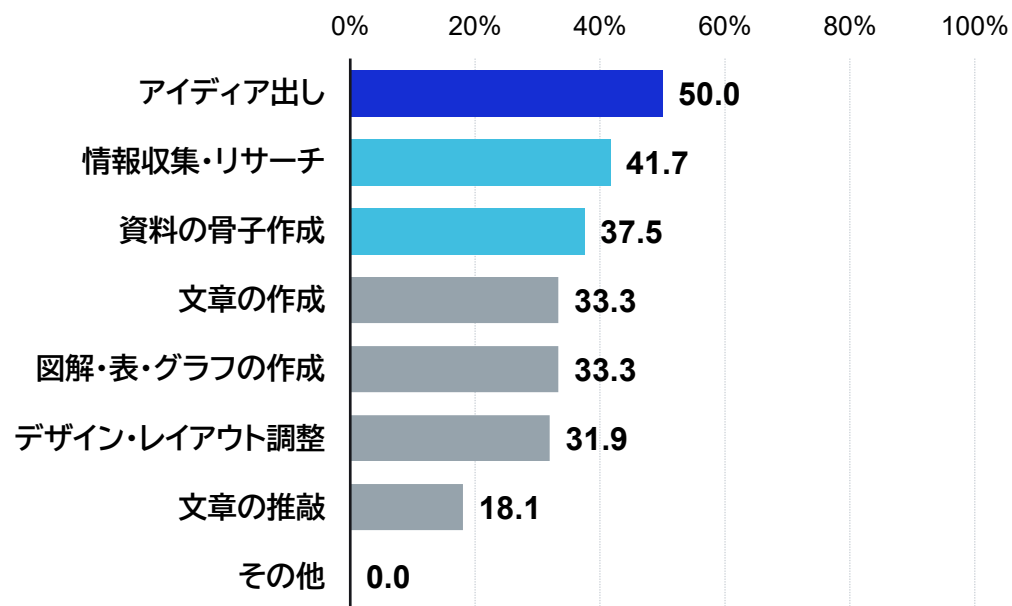
n=113



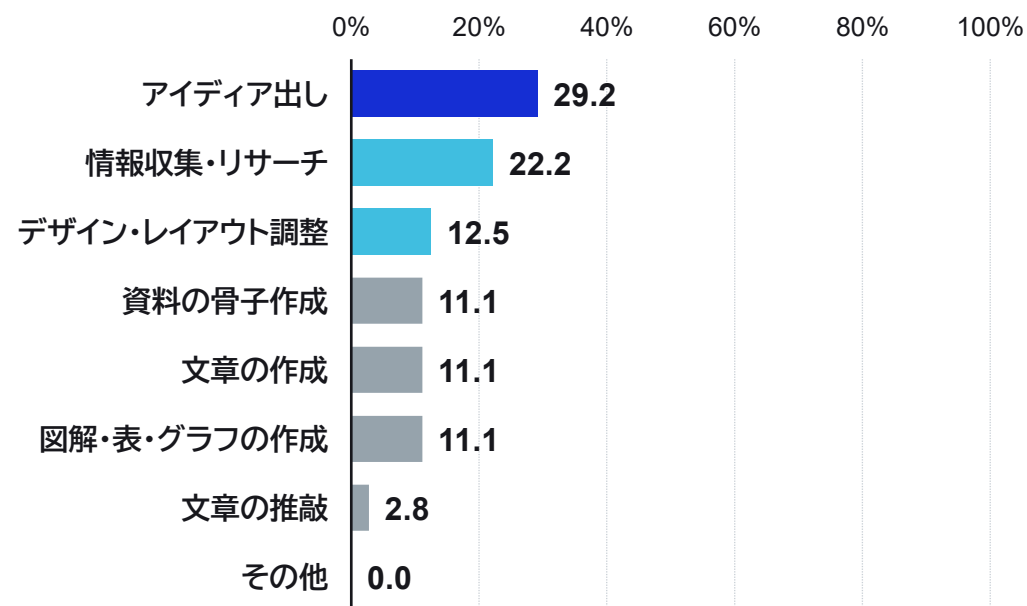
- 6割以上が「スライド生成AIツールの活用で資料作成業務が効率化されている」と回答

アイデア出しや情報収集に強いが、文章の推敲に課題

Q スライド生成AIツールを利用することで効率化できた資料作成の過程を教えてください。(複数回答) n=72



Q その中で最も効率化できた過程を教えてください。(単一回答) n=72

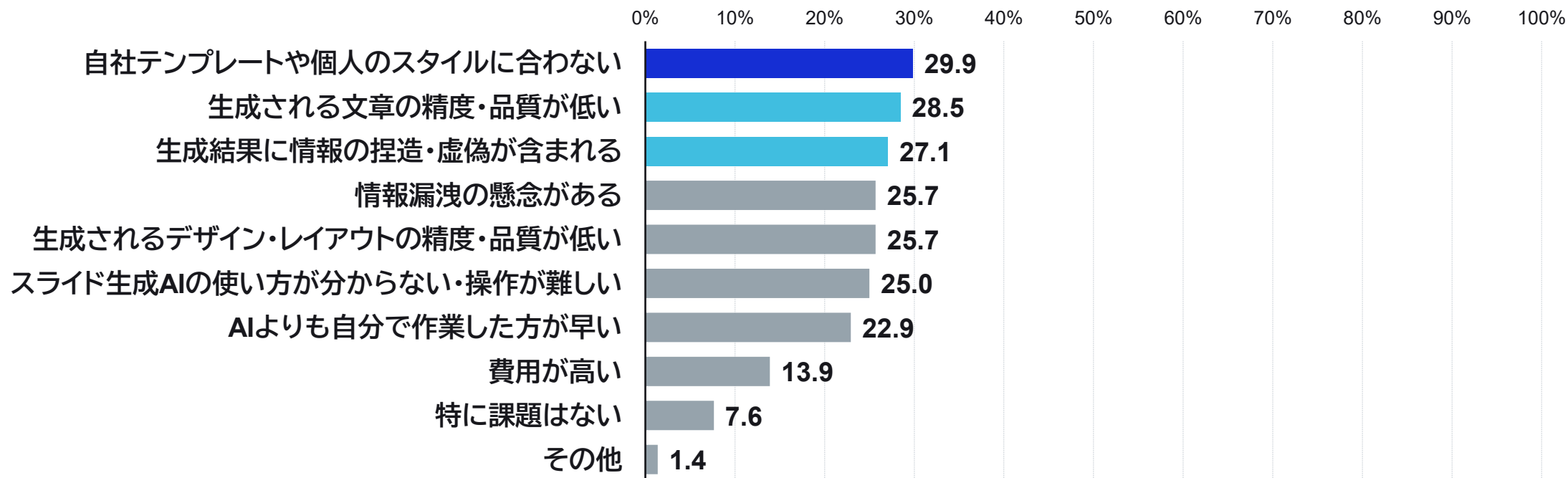


- 「アイデア出し」や「情報収集・リサーチ」領域での効率化に加え、資料の骨子作成や図解の作成過程でも効率化を実感できている
- 一方で文章の推敲には課題が見える

“AIが作る資料”と“実務で使える資料”との間にギャップが存在

Q スライド生成AIツールに関して感じている課題を教えてください。(複数回答)

n=144

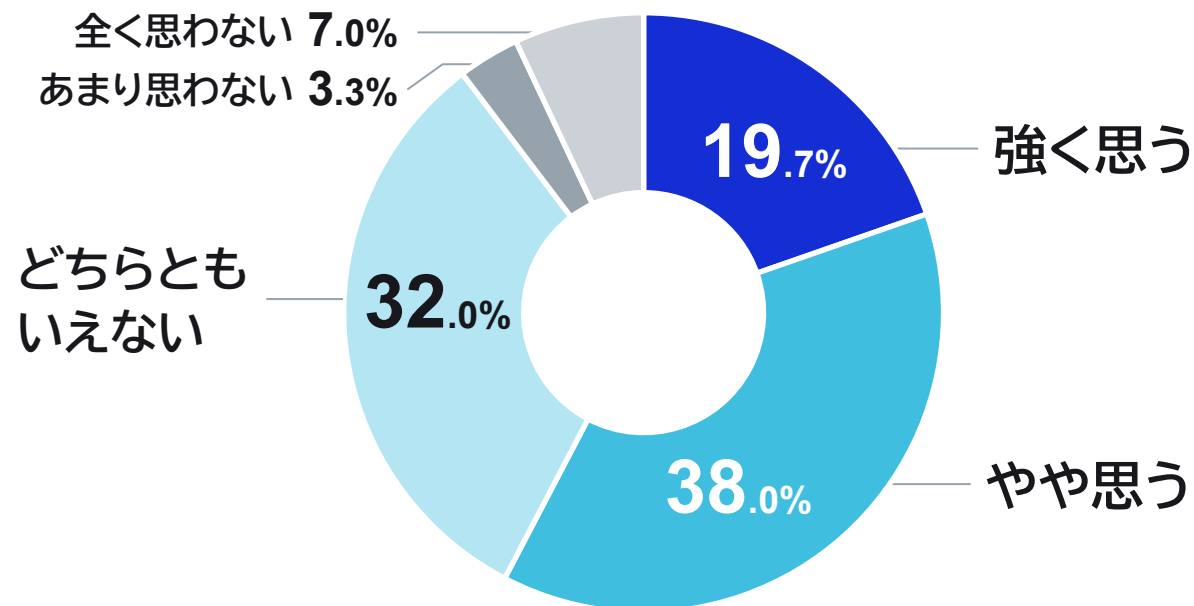


- 自社のテンプレートやスタイルに合わせるためのデザインの手直しや、文章の校正・編集が必要である可能性が高く、『**すぐに実務で使える完成度**』という利用者の期待に十分に答えられていない

“いつもの資料”の再現性が求められている

- Q 「自社テンプレートなど既存資料の構成やデザインを流用して、新しい資料を作成できるスライド生成AI」があるとしたら、使ってみたいと思いますか。(単一回答)

n=300

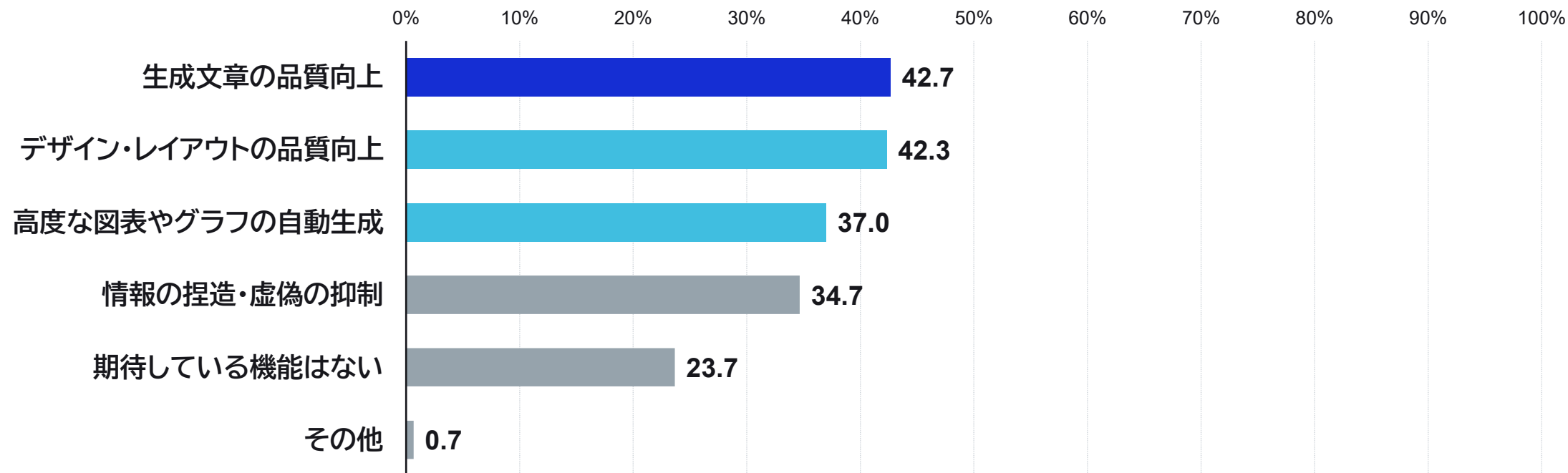


- 約6割が既存資料の構成やデザインを流用できるスライド生成AIを使ってみたいと回答
- “スライドの再利用性”や“現在の業務との親和性”を重視するニーズが強く示される

品質と精度の向上が利用拡大の鍵

Q 今後のスライド生成AIに期待している機能はありますか？（複数回答）

n=300



- 今後スライド生成AIの活用を拡大していく上では、スムーズに実務に取り入れられる品質と実用性、および精度・信頼性が求められることがわかる



おわりに

ストリームラインからのご案内

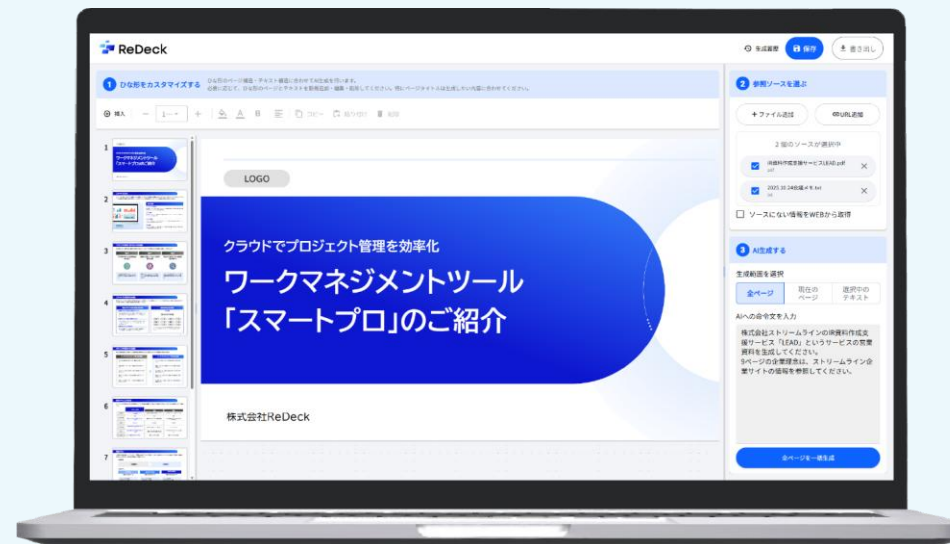
スライド生成AIサービス「ReDeck(β版)」のご紹介

今回の調査の最後で、スライド生成AIに対しての課題として「自社テンプレートやスタイルとの不一致」が上位に挙がり、『すぐに実務で使える完成度がほしい』『いつも使っている資料を生成したい』という利用者のニーズが浮かび上がりました。このニーズに応えられるのが、株式会社ストリームラインが提供するスライド生成AIサービス「ReDeck(リデック)」です。ReDeckは、既存のパワーポイント資料をひな形として構成・デザインを流用することで、会社や個人のスタイルに合った資料を新しく生成します。

0から資料を作るのはもう終わり
“いつもの資料”が最短1分で生成

スライド生成AIサービス
ReDeck β版

サービス詳細はこちら



会社概要

株式会社ストリームライン

設立	2016年2月
資本金	500万円
代表者	梶山 洋二
事業内容	資料作成支援事業
所在地	東京都品川区上大崎三丁目2番1号 目黒センタービル8階
従業員数	27名(2026年3月時点)

資料作成支援実績

累計企業数 **1,000** 社以上、累計上場企業数 **250** 社以上

※ 2026年3月現在